



(参考仮訳)

プレスリリース No. 11/36

即時解禁

2011年2月10日

国際通貨基金 (IMF)

米国・ワシントン DC

## ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、国際通貨制度の強化の必要性を指摘

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は本日、国際通貨制度の改革において十分な措置が講じられなかった場合、危機再燃の危険性があると述べるとともに、世界経済のより良く力強い回復には、国際レベルでの新たな連携が不可欠だと指摘した。

ワシントン DC の IMF で行われた、国際通貨制度に関するパネルディスカッションの中で同専務理事は「世界的不均衡が再び顕在化している。不安定な巨額の資本フロー、為替レートへの圧力、外貨準備高の急増といった、危機以前に存在していた懸念事項が、急務の課題として再び浮上してきた」と述べた。「国際通貨制度改革は、経済回復を支えるのみならず、同制度の危機再発防止能力の強化にも繋がる」

ストロスカーン氏は、改革の柱として以下3項目を掲げた。

- **国際政策協調の強化。** ストロスカーン氏は、各国による協調が世界経済の危機からの脱却に寄与したとして、一層強力な連携が、より安定した世界成長の足場となると述べた。同氏は、G20の相互評価プロセス (MAP) は、一段と永続的な国際的政策協調の枠組みの構築に向けた重要な一歩であり、IMFの金融セクター評価プログラム、及び各国の政策の波及的相互影響に関する新規の報告書は、サーバイランス強化に向けた措置だと述べた。
- **資本フロー及び為替のボラティリティの抑制。** 資本流入に対する各国の政策は他国に影響を及ぼす。同氏は、資本フローの管理をめぐる「交通規則」の国際的合意の必要性の有無も含め、IMFは様々な事項の検証を行っている」と述べた。

- 変動が過剰な際は資本注入を強化。先の危機の後、国際金融のセーフティネットは強化された。同氏は、IMFによるフレキシブル・クレジットライン及び予防的信用枠の導入をその具体例として挙げた。さらに同氏は「地域レベルの融資取極との連携の強化」に向けた方策も検証に値すると述べた。

### 国際通貨制度の強化における SDR が果たし得る役割

ストロスカーン氏は、より安定した通貨制度の構築において、IMFの国際準備資産である特別引出権（SDR）が、一段と大きな役割を担うことも可能だとの見解を示した。同氏は、その実現は容易ではないとしながらも、世界レベルでより多くの国が SDR を利用するようになれば、過度の外貨準備の積み増しに頼る必要性が減じ、世界的不均衡の是正に繋がる可能性があるとの見解を示した。SDR 建て債券は新たな準備資産としての役割を果たし、また、貿易の決済並びに金融資産を SDR 建てとした場合には、為替レートのボラティリティに対するバッファーとなる可能性がある」と指摘した。

ストロスカーン専務理事は、国際通貨制度の改革は、学界で理念として議論されることではないと述べ、パネルディスカッションを締めくくった。「これは、世界にとり不可欠な、均衡の取れた持続的な回復の実現にリンクしているものであり、危機の再発防止にリンクしているのである」